

背景の絵は、北村こくわの里入会の

しおりの絵です。わかりますか??

12月に発行するこくわ通信が200号記念となります。

私が編集委員に加わったのは今年の8月なので今はまだ手探り状態ですが、今回200号を発行するにあたりこくわ通信の歴史の中にはこんなにたくさんの方々が編集に携わっていたということを改めて知りました。

これからも色々と楽しめる原稿を載せていくたいと思っています。
(成田 麻子)

こくわ通信200号おめでとう!
こくわの歴史を学び・30周年記念誌を書いたのを思い出されます。色々な出会いを通じて、これからも楽しくこくわ通信を載せて行きます!どうぞよろしくお願ひします。

(但木 美和子)

こくわ通信200号を記念して編集委員に加わってくれた方を編集後記から探してみました。

連絡の取れそうな9名の方にお手紙を出しました。2名の方からお便りが届きました。

通信の第1号は「岩見沢に共同作業所をつくる会準備会ニュース」でした。その後「友の会ニュース」になり第3種郵便の認可がとれてから「こくわ通信」になったと思います。こくわの里のなかまや職員や地域の人の思いを乗せて全国の会員のもとへ今日も大切な糸をはこびます。

「こくわ通信」に幸あれと…

こくわ通信

この号を記念してお祝いの言葉
皆様の思い出を集めました

記念すべき200号!!!

編集委員として約5年間は大変で慣れない操作も教えて頂きながらここまで来ました。初めのころはどんな風にレイアウトをすればいいのか悩みながら、家に持ち帰り編集する時もありました。これからも3人の編集委員と力を合わせて素敵な通信を作り上げていきたいと思っています。
(山根 彩美)



こくわの里在職中、こくわ通信編集委員として、原稿のお願いや写真撮影、そして私自身も、頑張っているなかまの様子や日常を文章にしていました。

初めて編集委員になった時は、どうしていいのかわかりませんでしたが、やっていくうちに、写真選びやコメント入れ、レイアウトなど、できるようになりました。編集委員は、発行前に原稿が読める為、毎回みんなより先に楽しんでいました。印刷した通信は昌勝先生、駒場さん、なかまと三つ折りにし、封筒に入れてテープを貼り、完成させた事や、折り方がズレてしまったりもしますが、一生懸命に通信作業に参加していた事、間に合うかどうか時間ギリギリだった事もあり、急いで郵便局へ行き、戻ってきて「間に合った~」の一言で通信の作業が終わり、ほっとした事などを思い出しました。
(高坂 真裕美)

こくわ通信の編集委員をしていた時期はちょうど30周年記念誌の編集と重なっており、通信の方には主に表紙のレイアウトを担当しました。記念誌編集の苦労は色々と思い出せるのですが、編集後記以外の文責がなかったせいか、委員としての記憶は定かではありません。200号到達おめでとうございます。
(石田 浩平)

こくわ通信200号記念おめでとう!

2ヶ月に一度(総会議案書のある時は毎月)に決めたのは50号を越えたころかなと思いますが、こくわの職員だけでは作れなくて故石田昌勝さんがワープロ担当でした。その後パソコンに代わって「一太郎だ!!」と張り切っていたのを思い出します。手書きの頃はひまわり保育園の渡江さんが上手なカットを書いてくれて楽しみながら読んでいた頃もありました。何はともあれ素敵な財産ですね。
(石田 ルミ江)